【別紙】「Gスマイルカップ」循環型システムの実現に向けた実証試験詳細

ガンバ大阪は、「試合日にスタジアムから出る廃棄ゴミをゼロ化する」取組みの一環として、2022 年度に三菱ケミカル株式会社が開発した生分解性樹脂 BioPBS™ を内側にラミネートした紙コップ「G スマイルカップ」を使うことで、容器が堆肥化する循環型システムの実現に向けた実証試験を、日本で初めて年間を通じて取り組みます。

スタジアムで 1 番多いゴミは、ビールを含むドリンクを入れるプラスチックコップでした。昨年まではこのプラスチックコップを利用してビールを販売しておりましたが、今年度は、スタジアムで販売する 300ml 以上の容器を使用するドリンクをこの「G スマイルカップ」を使用することで、ゴミではなく全量を資源回収します。
これによって、従来のプラスチックカップ約 10 万個(2019 年実績)が、堆肥化され循環されます。

この取り組みは、大阪府が平成 31 年 1 月に「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を行い、さらに吹田市も参加している令和 3 年 8 月に設置された「おおさかプラスチック対策推進プラットフォーム」のプラスチックの資源循環を推進する活動となります。

紙コップを起点とする循環システム

「G スマイルカップ」

◆三菱ケミカル株式会社製の生分解性樹脂 BioPBS™について
BioPBS™は、三菱ケミカル株式会社が開発、基本特許を有し、三菱ケミカル株式会社とタイ PTT Global Chemical 社が折半出資する PTT MCC Biochem Company Limited が製造する植物由来の生分解性樹脂で、自然界の微生物によって水と二酸化炭素に分解されるため、自然環境への負荷が少ない樹脂素材です。また、他の生分解性樹脂に比べ、低温ヒートシール性・耐熱性・柔軟性などで優れた性能を有しています。
通常、紙コップの内側には耐水性のためにポリエチレン（非生分解性樹脂）でラミネート加工が施されています。そのラミネート材料に BioPBS™を用いることで、紙コップ全体がコンポスト設備や土壌で分解可能になります。